

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスタ		
事業所名	やぎあん	ユニット名	1F
所在地	仙台市太白区八木山南3丁目1-12		
自己評価作成日	平成 26年 12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安全と楽しみのどちらも大切に出来るよう、インシデントやアクシデントを話し合うと共に、カラオケの設置や家事への参加、季節毎の行事を取り入れています。また、入居を考えている方が選択しやすいよう一泊の体験入居をお勧めしております。
研修機会を2ヶ月に1回のペースで設け、質の高いサービスが提供出来るよう取り組んでおります。いつでもご見学頂けますので、ご連絡をお待ちしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

間もなく開通する地下鉄東西線の終点、動物公園駅や日赤病院他の市街地に面した環境のよい場所にある。開設8年の施設であるが、行政の連携も良く地域に密着している。常勤の看護師や協力医療機関の連携もよく、入居者の健康管理も行き届いている。今年度から表彰付のナイスケア運動(職員の意見箱)の展開を始めた。職員研修は2ヶ月に1度実施し、特に身体拘束事故防止に力を入れ取り組んでいる。「身体拘束によって解決することは何もない」を理念にしている。介護理念に「わがままに」を掲げ、自由で、ありのままに…わがままに…、居間からは賑やかに、歌や会話が聞こえていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 1F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を理念とし、地域生活も含めたその方の生き方を大切にしていく。職員は言動一つ一つを確認しながらその方が望む事の実現に向け支援している。また、研修機会に見直しや確認を行っている。	「ありのままに～わがままに・・・」を理念とし、自由で人間としての尊厳や権利を損なわず、その人らしく、ゆったり、楽しく家庭的な雰囲気地域の一員として生活できるよう管理者と職員はその理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りや、防災訓練に地域の方を招いたり、また、日常的には散歩・外気浴の機会が多く話しかけて下さる方がいたり、ハロインで子供達が来所し利用者が喜ばれている。	町内会長や隣人の協力のもとに、夏祭りや、防災訓練等は地域の一員として日常的交流をしている。日赤病院内保育園児達の来訪時には、入居者が飴袋をあげる等、世代間交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議へ参加し施設紹介などさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内新聞を作り、活動の様子を報告している。地域の方からは、AED設置に伴い地域で必要な状況の時のため、地域で集まる機会があればアナウンスと使用方法など説明をして欲しいと話があり機会があれば実施予定である。	2ヶ月に1度開催し、包括、民生委員、家族代表、管理者、看護師が参加している。行事計画や、家族から写真入りの生活の様子に感謝の報告があり、日中施設なく離設の際の情報収集の方法が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の申請事項などの不明点を伺う事や、事故報告をさせて頂く事で、ご指導頂き再発の防止に努めている。	地域ケア会議の参加や地域包括支援センターからの紹介で、学生の実習体験を受入れた。入居者の申請に関する相談や事故の再発防止の指導をいただく等、行政との協力関係は良い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修として、不適切な対応になり得る項目を全職員で話し合い見直す事で、身体拘束を許さないよう取り組んでいる。	「身体拘束により解決できることは何もない」を理念にケアの実践に取り組んでいる。指定基準の禁止行為を全職員が研修を重ね学んでいる。玄関の施錠はもとより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修へ積極的に参加し、全職員で理解している。また、日頃不適切なケアと思うところを話し合い、互いの考えを知ること振り返りを行い虐待へつながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、施設内で報告会を行うことで知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき説明を行っている。また、契約以降でも疑問がある場合はいつでも尋ねていただけるようご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご意見はカンファレンスやチーフ会議を通話し合い、改善に努めている。ご家族様からはプランの更新時や運営推進会議でご意見を伺っている。	相談窓口の第三者委員に町内会長、自治会班長を委嘱している。家族からはプランの更新時や推進会議等で要望を聞き、入居者からは随時本の購入や、民謡のDVD、カラオケ等の要望に応じ満足に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、法人役員も参加しながら意見反映に努めている。また、契約更新時には法人代表が直接面接を行っている他、管理者は別に個人面談を行っている。	毎年法人代表の面談や、管理者面談があり、職員の意見を聞いている。職員の意見箱を設置し、優れた提案には表彰すると云うナイスケア運動を展開、運営に反映させ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の契約更新時に給与の引き上げを行っている。また、経験、年数に応じながらパート職員から社員雇用を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や個人の自己評価を行うことで一人一人の思考や力量を把握し、段階的に学んでいけるよう内部研修を行っている。また、事業所内で完結するのではなく外部研修を勧め、広い視野、知識が得られるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員が行事へ参加するなど交流機会を設けている。また、会話の中から他事業所の取り組みなど聞くことでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に聞き取り調査を行いニーズの把握に努めている。又、プランにも反映されておりサービス提供につながっている。利用以降もご意見を聞き、言葉に出来ない方に関しても表情や仕草から読み取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様からも聞き取りを行い、直接的にまたは、ちょっとした会話から思いをくみ取る努力をしている。また、利用者様のご様子なども報告し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定前にご自宅等へお伺いし、ご本人状況や望まれていることの把握に努め、必要によっては他のサービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にすることはもちろんであるが、調理や洗濯といった家事などを一緒に行うことで助け、助けられといった相互の関係をきづいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度心身状況をお伝えしたり、少ない方には電話や手紙でお伝えしている。又、行事等にもお誘いし関わる機会が増えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、ご家族様や友人に電話連絡や手紙が送れるよう支援している。また、もともと通っていた病院、美容院、スーパーなども利用している。	入居者それぞれのフェイスシートの生活歴をもとに、家族・友人等に電話連絡と手紙の支援をしている。馴染みの店、美容院、病院等の利用し、ドライブの際は昔の友人知人が住む場所に立ち寄る等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事、茶暇活動、外出等、各場面で全体や少人数での関わり機会を持ち、協力したり、一緒に笑ったり、慰め合ったりし生活されている。また、テーブルや席の配置によりゆっくり過ごせるスペース作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別関わる機会は設けておりませんでした が、たまたま、お会いした際には、ご相談を聞くなど行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑誌や日用品、お好みの食べ物などはなしていただきその都度、対応している。また、介助中心の方には、バックグラウンドからの読み取りや、表情しぐさにて対応している。	本人の生活歴や趣味を把握し、支援策を探り振り返りながらケアに努めている。読みたい雑誌、日用品、好きな食べ物を聞いて対応し、意思表示の困難な入居者には表情やしぐさから思いを探り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や面会にこられた友人などのお話を聞き生活歴の把握に努めている。また、ご本人様からも普段の会話を通し把握に努めケアの実践につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を整備しており、一日のご様子(心身状態、活動状況)や健康状態を細かく記載し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を踏まえカンファレンスで全職員が意見を出し合う機会を持ち介護計画を作成している。また、必要に応じ医師、看護師より助言を頂いている。	本人、家族、医師、看護師の意見を参考に現状に即した介護計画が作成されている。短期・長期目標を明確にし、サービス担当者会議で詳細に検討しカンファレンスは全職員の参加で見直しを図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を使用し、課題となる出来事に対して行った考えや工夫、そして結果へと結びつくよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族から外出への付き添い希望があり、勤務として取り扱い温泉へ行って楽しんでこられた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険利用前から地域で関わっていた人や場所また、入居後出来た馴染みの店など買い物へ出かけることで声をかけてくださる方もおり利用者様から出かけたいと希望を話されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に以前からかかりつけとなっていた各専門医への受診を希望される方もおり、ご家族様のご希望により通院介助や通院への付き添いを行い状況説明等行っている。	家族が希望するかかりつけ医(眼科、歯科、皮膚科)は4名ほどおり、通院介助を行っている。協力医(医療法人たんぼぼクリニック)との関係は良く、訪問診療も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、24時間オンコールとなっている。また、日常記録とは別に健康状態を記録し協力医を始め各医療機関へ受診を行っている。また、定期受診などであれば職員も通院介助に入るなど早めの受診が出来るよう検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があった場合に情報がすぐに提供出来るよう一覧としてまとめている。また、ご家族の了承を得ながら医師やケースワーカーの説明機会に立ち会い今後の対応を相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」を説明しながら意向の確認に努めている。また、重度化に伴い、再度御家族の意思確認や施設で出来る事の説明書を作成する。また、医師との面談機会を設けている。	重要事項説明書に重度化における対応が明記され、契約時は指針書の同意欄に署名捺印する。なお連携医療機関は医療法人ならぬ杜たんぼぼクリニック、担当医と当事業所の担当看護師が明記され、昨年から今年にかけ2人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の研修を行い、知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、地域の方にも参加して頂いている。	防災訓練は年2回実施、避難時間は8分前後かかった。消防署から、入居者の避難の際の人数が足りないとの指摘があった。連合町内会長と自治会班長を緊急連絡網に加わえて戴き、近隣に声掛けを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の場面で羞恥心に配慮し、声掛けのタイミングやトーンなどに気を配ると共に、同姓介助を希望される方には柔軟に対応している。	人生の大先輩として尊重し、呼び名は、さん付け、入浴や排泄介助は同性介助を基本に柔軟に対応している。失禁事は周りに配慮し何気なくトイレに誘導している。命令調やダメは避けて、静かに耳元で話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや衣類の選択など様々な場面でご本人に伺い支援につなげている。また、選択することが困難な方にも選択肢を提起し選らんで頂くなど配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを決定する場合でも、常に利用者様一人一人の生活ペースが守られるように配慮している。又、その時々状況に応じて柔軟に対応出来るよう普段から意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人が衣類を選び着用している。迷われたりされるときには、季節も伝えながら一緒に選んでいる。女性利用者の方では化粧をされる方もおり化粧品なども購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事チエツク表を利用し、好みを把握するとともにご本人の、その時々希望も伺いメニュー作りをしている。また、買い物から調理まで利用者様に関わっていただき「これは上手いよ」など会話しながら食事をとっている	食事は入居者最大の楽しみであり、好みを聞き入れた献立である。食材の買物から調理まで職員と共に関わっている。準備や片付けも職員と一緒に自分の仕事としている。職員と共に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、一人ひとりにあつた量が提供出来るよう生活習慣により食べる時間を変更したり、量が少ないときには補食としてご本人の好みの物など提供している。また、咀嚼状況によりソフト食や刻みなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけや、必要に応じ出来ないところ(用具を用意する、うまく磨けない方)を介助している。また、義歯使用のかたは休むときに洗浄液煮付けて頂く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへご案内しても断られる方がいらっしゃるが少し時間を置いて声掛けしたり、活動機会を設けることでトイレ立ちの機会となるよう行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、失敗やオムツの使用を減らす為に、トイレでの排泄を基本に支援している。現在おむつ1人、リハビリパンツ2～3人、可能な限り自立排泄を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や繊維質の食材を取り入れたり、運動ではテレビ体操や散歩の機会を多く取り入れている。それらの対応によっても解消されない方に関しては主治医の指示の基、下剤や漢方薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が好きな時間に入れるよう配慮したり、入浴を好まれない方にも入浴剤を変えて声がけしたりと入浴が楽しみとなるよう支援している。	本人の好きな時間、午前でも午後でも入浴が可能である。入浴拒否者もあり、時間差や声がけ者を替えたり、温泉気分を入浴剤で演出する等の工夫をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に無理に睡眠を進めず、一緒に過ごしたりし安心していただけるよう配慮している。また、睡眠不足の方には、仮眠をとっていただき体調を崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し効能や副作用を確認している。また、薬が変更になったときには申し送りノートを活用し全職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	俳句、書道、縫い物など昔の仕事や趣味を活かし掲示物や飾りを行って頂いている。また、調理など出来るところは積極的に行って頂いている。また、カラオケを設置し楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ機会を多く取り入れている。歩行に不安のある方や室内にこもりがちの方でも庭先での外気浴が楽しめるよう支援している。	入居者一人の希望でも、化粧沼や仙台空港に出掛けている。四季に沿った行事には積極的に戸外に出掛けている。護国神社初詣～三神峰桜、白石城等、車椅子の人にも外気浴や、本人の馴染みの場所へぶらりドライブの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預かっているが買い物ではご自分で選びお金を出して購入出来る方がおり必要などを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から連絡したい方は少ないが、遠方にいる御家族様から連絡があり、会話が聞き取れなかったりするため、間に入り説明する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小上がりが畳みになっており、使用して頂けるよう家具配置など工夫している。また、居室は個室となっており、自由に出入りし休まれている。	空調管理も良く快適である。居間や廊下にはみんなで作った折り紙人形等が飾られている。居間にはクリスマスツリーがあり、季節感に溢れていた。90歳近くの入居者が書いたと云う毛筆の歌詞や献立表、部屋の表札等は、今を生きる証であり誇りであろう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の位置を工夫し、仲の良い方で話が出来たりまた、上手くコミュニケーションが取れない方がいる場合は職員と一緒に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から愛着のあるものを持ち込んで頂くよう話をしている。また、ホームでの思い出としても写真など飾り居心地の良い空間作りに努めている。	比較的持ち込み品は少ないが、家族の写真や思い出の品物が整理良く置かれ清潔感のある居心地の良い居室になっている。各部屋は冷暖房が完備され、訪問者用藤椅子が置かれている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所がオープンキッチンで、利用者様が出入りしやすいようになり、調理へ参加する機会に繋がっている。又、手すりも各所に設置しており、安全に移動出来ている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495400053		
法人名	有限会社 クラスタ		
事業所名	やぎあん	ユニット名	2F
所在地	仙台市太白区八木山南3丁目1-12		
自己評価作成日	平成 26年 12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安全と楽しみのどちらも大切に出来るよう、インシデントやアクシデントを話し合うと共に、カラオケの設置や家事への参加、季節毎の行事を取り入れています。また、入居を考えている方が選択しやすいよう一泊の体験入居をお勧めしております。
研修機会を2ヶ月に1回のペースで設け、質の高いサービスが提供出来るよう取り組んでおります。いつでもご見学頂けますので、ご連絡をお待ちしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

間もなく開通する地下鉄東西線の終点、動物公園駅や日赤病院他の市街地に面した環境のよい場所にある。開設8年の施設であるが、行政の連携も良く地域に密着している。常勤の看護師や協力医療機関の連携もよく、入居者の健康管理も行き届いている。今年度から表彰付のナイスケア運動(職員の意見箱)の展開を始めた。職員研修は2ヶ月に1度実施し、特に身体拘束事故防止に力を入れ取り組んでいる。「身体拘束によって解決することは何もない」を理念にしている。介護理念に「わがままに」を掲げ、自由で、ありのままに…わがままに…、居間からは賑やかに、歌や会話が聞こえていた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成26年12月 18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やぎあん)「ユニット名 2F 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「我がままに」を理念とし、地域生活も含めたその方の生き方を大切にしていく。職員は言動一つ一つを確認しながらその方が望む事の実現に向け支援している。また、研修機会に見直しや確認を行っている。	「ありのままに～わがままに・・・」を理念とし、自由で人間としての尊厳や権利を損なわず、その人らしく、ゆったり、楽しく家庭的な雰囲気地域の一員として生活できるよう管理者と職員はその理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所で行う夏祭りや、防災訓練に地域の方を招いたり、また、日常的には散歩・外気浴の機会が多く話しかけて下さる方がいたり、ハロインで子供達が来所し利用者が喜ばれている。	町内会長や隣人の協力のもとに、夏祭りや、防災訓練等は地域の一員として日常的交流をしている。日赤病院内保育園児達の来訪時には、入居者が飴袋をあげる等、世代間交流もなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議へ参加し施設紹介などさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内新聞を作り、活動の様子を報告している。地域の方からは、AED設置に伴い地域で必要な状況の時のため、地域で集まる機会があればアナウンスと使用方法など説明をして欲しいと話があり機会があれば実施予定である。	2ヶ月に1度開催し、包括、民生委員、家族代表、管理者、看護師が参加している。行事計画や、家族から写真入りの生活の様子に感謝の報告があり、日中施設なく離設の際の情報収集の方法が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の申請事項などの不明点を伺う事や、事故報告をさせて頂く事で、ご指導頂き再発の防止に努めている。	地域ケア会議の参加や地域包括支援センターからの紹介で、学生の実習体験を受入れた。入居者の申請に関する相談や事故の再発防止の指導をいただく等、行政との協力関係は良い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修として、不適切な対応になり得る項目を全職員で話し合い見直す事で、身体拘束を許さないよう取り組んでいる。	「身体拘束により解決できることは何もない」を理念にケアの実践に取り組んでいる。指定基準の禁止行為を全職員が研修を重ね学んでいる。玄関の施錠はもとより、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外部の研修へ積極的に参加し、全職員で理解している。また、日頃不適切なケアと思うところを話し合い、互いの考えを知ること振り返りを行い虐待へつながらないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、施設内で報告会を行うことで知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をご家族様にとっていただき説明を行っている。また、契約以降でも疑問がある場合はいつでも尋ねていただけるようご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からのご意見はカンファレンスやチーフ会議を通話し合い、改善に努めている。ご家族様からはプランの更新時や運営推進会議でご意見を伺っている。	相談窓口の第三者委員に町内会長、自治会班長を委嘱している。家族からはプランの更新時や推進会議等で要望を聞き、入居者からは随時本の購入や、民謡のDVD、カラオケ等の要望に応じ満足に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開催し、法人役員も参加しながら意見反映に努めている。また、契約更新時には法人代表が直接面接を行っている他、管理者は別に個人面談を行っている。	毎年法人代表の面談や、管理者面談があり、職員の意見を聞いている。職員の意見箱を設置し、優れた提案には表彰すると云うナイスケア運動を展開、運営に反映させ、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年の契約更新時に給与の引き上げを行っている。また、経験、年数に応じながらパート職員から社員雇用を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や個人の自己評価を行うことで一人一人の思考や力量を把握し、段階的に学んでいけるよう内部研修を行っている。また、事業所内で完結するのではなく外部研修を勧め、広い視野、知識が得られるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員が行事へ参加するなど交流機会を設けている。また、会話の中から他事業所の取り組みなど聞くことでサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に聞き取り調査を行いニーズの把握に努めている。又、プランにも反映されておりサービス提供につながっている。利用以降もご意見を聞き、言葉に出来ない方に関しても表情や仕草から読み取り関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族様からも聞き取りを行い、直接的にまたは、ちょっとした会話から思いをくみ取る努力をしている。また、利用者様のご様子なども報告し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居決定前にご自宅等へお伺いし、ご本人状況や望まれていることの把握に努め、必要によっては他のサービスについて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を大切にすることはもちろんであるが、調理や洗濯といった家事などを一緒に行うことで助け、助けられといった相互の関係をきづいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の多いご家族様にはその都度心身状況をお伝えしたり、少ない方には電話や手紙でお伝えしている。又、行事等にもお誘いし関わる機会が増えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望により、ご家族様や友人に電話連絡や手紙が送れるよう支援している。また、もともと通っていた病院、美容院、スーパーなども利用している。	入居者それぞれのフェイスシートの生活歴をもとに、家族・友人等に電話連絡と手紙の支援をしている。馴染みの店、美容院、病院等の利用し、ドライブの際は昔の友人知人が住む場所に立ち寄る等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が途切れないよう、支援に努めている	家事、茶暇活動、外出等、各場面で全体や少人数での関わり機会を持ち、協力したり、一緒に笑ったり、慰め合ったりし生活されている。また、テーブルや席の配置によりゆっくり過ごせるスペース作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特別関わる機会は設けておりませんでした が、たまたま、お会いした際には、ご相談を聞くなど行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	雑誌や日用品、お好みの食べ物などはなしていただきその都度、対応している。また、介助中心の方には、バックグラウンドからの読み取りや、表情しぐさにて対応している。	本人の生活歴や趣味を把握し、支援策を探り振り返りながらケアに努めている。読みたい雑誌、日用品、好きな食べ物を聞いて対応し、意思表示の困難な入居者には表情やしぐさから思いを探り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や面会にこられた友人などのお話を聞き生活歴の把握に努めている。また、ご本人様からも普段の会話を通し把握に努めケアの実践につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を整備しており、一日のご様子(心身状態、活動状況)や健康状態を細かく記載し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を踏まえカンファレンスで全職員が意見を出し合う機会を持ち介護計画を作成している。また、必要に応じ医師、看護師より助言を頂いている。	本人、家族、医師、看護師の意見を参考に現状に即した介護計画が作成されている。短期・長期目標を明確にし、サービス担当者会議で詳細に検討しカンファレンスは全職員の参加で見直しを図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元にしたケース記録を使用し、課題となる出来事に対して行った考えや工夫、そして結果へと結びつくよう記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族から外出への付き添い希望があり、勤務として取り扱い温泉へ行って楽しんでこられた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険利用前から地域で関わっていた人や場所また、入居後出来た馴染みの店など買い物へ出かけることで声をかけてくださる方もおり利用者様から出かけたいと希望を話されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とは別に以前からかかりつけとなっていた各専門医への受診を希望される方もおり、ご家族様のご希望により通院介助や通院への付き添いを行い状況説明等行っている。	家族が希望するかかりつけ医(眼科、歯科、皮膚科)は4名ほどおり、通院介助を行っている。協力医(医療法人たんぼぼクリニック)との関係は良く、訪問診療も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員として看護師を配置し、24時間オンコールとなっている。また、日常記録とは別に健康状態を記録し協力医を始め各医療機関へ受診を行っている。また、定期受診などであれば職員も通院介助に入るなど早めの受診が出来るよう検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急変があった場合に情報がすぐに提供出来るよう一覧としてまとめている。また、ご家族の了承を得ながら医師やケースワーカーの説明機会に立ち会い今後の対応を相談させて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取りに関する指針」を説明しながら意向の確認に努めている。また、重度化に伴い、再度御家族の意思確認や施設で出来る事の説明書を作成する。また、医師との面談機会を設けている。	重要事項説明書に重度化における対応が明記され、契約時は指針書の同意欄に署名捺印する。なお連携医療機関は医療法人ならぬ杜たんぼぼクリニック、担当医と当事業所の担当看護師が明記され、昨年から今年にかけ2人の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止の研修を行い、知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回行い、地域の方にも参加して頂いている。	防災訓練は年2回実施、避難時間は8分前後かかった。消防署から、入居者の避難の際の人数が足りないとの指摘があった。連合町内会長と自治会班長を緊急連絡網に加わえて戴き、近隣に声掛けを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄等の場面で羞恥心に配慮し、声掛けのタイミングやトーンなどに気を配ると共に、同姓介助を希望される方には柔軟に対応している。	人生の大先輩として尊重し、呼び名は、さん付け、入浴や排泄介助は同性介助を基本に柔軟に対応している。失禁事は周りに配慮し何気なくトイレに誘導している。命令調やダメは避けて、静かに耳元で話をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューや衣類の選択など様々な場面でご本人に伺い支援につなげている。また、選択することが困難な方にも選択肢を提起し選らんで頂くなど配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れを決定する場合でも、常に利用者様一人一人の生活ペースが守られるように配慮している。又、その時々状況に応じて柔軟に対応出来るよう普段から意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご本人が衣類を選び着用している。迷われたりされるときには、季節も伝えながら一緒に選んでいる。女性利用者の方では化粧をされる方もおり化粧品なども購入できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好みを伺いながらメニュー作りに努めている。また、味付けや調理など関わっていただく事でやり甲斐となっている。	食事は入居者最大の楽しみであり、好みを聞き入れた献立である。食材の買物から調理まで職員と共に関わっている。準備や片付けも職員と一緒に自分の仕事としている。職員と共に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、一人ひとりにあつた量が提供出来るよう生活習慣により食べる時間を変更したり、量が少ないときには補食としてご本人の好みの物など提供している。また、咀嚼状況によりソフト食や刻みなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声かけや、必要に応じ出来ないところ(用具を用意する、うまく磨けない方)を介助している。また、義歯使用のかたは休むときに洗浄液煮付けて頂く様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへご案内しても断られる方がいらっしゃるが少し時間を置いて声掛けしたり、活動機会を設けることでトイレ立ちの機会となるよう行っている。	入居者の排泄パターンを把握し、失敗やオムツの使用を減らす為に、トイレでの排泄を基本に支援している。現在おむつ1人、リハビリパンツ2～3人、可能な限り自立排泄を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の確保や繊維質の食材を取り入れたり、運動ではテレビ体操や散歩の機会を多く取り入れている。それらの対応によっても解消されない方に関しては主治医の指示の基、下剤や漢方薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人が好きな時間に入れるよう配慮したり、入浴を好まれない方にも入浴剤を変えて声掛けしたりと入浴が楽しみとなるよう支援している。	本人の好きな時間、午前でも午後でも入浴が可能である。入浴拒否者もあり、時間差や声掛け者を替えたり、温泉気分を入浴剤で演出する等の工夫をしながら楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方に無理に睡眠を進めず、一緒に過ごしたりし安心していただけるよう配慮している。また、睡眠不足の方には、仮眠をとっていただき体調を崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し効能や副作用を確認している。また、薬が変更になったときには申し送りノートを活用し全職員で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外掃除や調理といった活動に参加して頂いている。また、ドライブや買い物の希望も多くその都度外出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ機会を多く取り入れている。歩行に不安のある方や室内にこもりがちの方でも庭先での外気浴が楽しめるよう支援している。	入居者一人の希望でも、化粧沼や仙台空港に出掛けている。四季に沿った行事には積極的に戸外に出掛けている。護国神社初詣～三神峰桜、白石城等、車椅子の人にも外気浴や、本人の馴染みの場所へぶらりドライブの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事業所で預かっているが買い物ではご自分で選びお金を出して購入出来る方がおり必要などを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から連絡したい方は少ないが、遠方にいる御家族様から連絡があり、会話が聞き取れなかったりするため、間に入り説明する支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の関係性に配慮しながら席を配置している。また、ゆっくり過ごして頂けるようソファを配置している。室温、湿度はこまめにチェックし調整している。	空調管理も良く快適である。居間や廊下にはみんなで作った折り紙人形等が飾られている。居間にはクリスマスツリーがあり、季節感に溢れていた。90歳近くの入居者が書いたと云う毛筆の歌詞や献立表、部屋の表札等は、今を生きる証であり誇りであろう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の位置を工夫し、仲の良い方で話が出来たりまた、上手くコミュニケーションが取れない方がいる場合は職員と一緒に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時から愛着のあるものを持ち込んで頂くよう話をしている。また、ホームでの思い出としても写真など飾り居心地の良い空間作りに努めている。	比較的持ち込み品は少ないが、家族の写真や思い出の品物が整理良く置かれ清潔感のある居心地の良い居室になっている。各部屋は冷暖房が完備され、訪問者用藤椅子が置かれている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所がオープンキッチンで、利用者様が入りやすいようになっており、調理へ参加する機会に繋がっている。又、手すりも各所に設置しており、安全に移動出来ている。		